

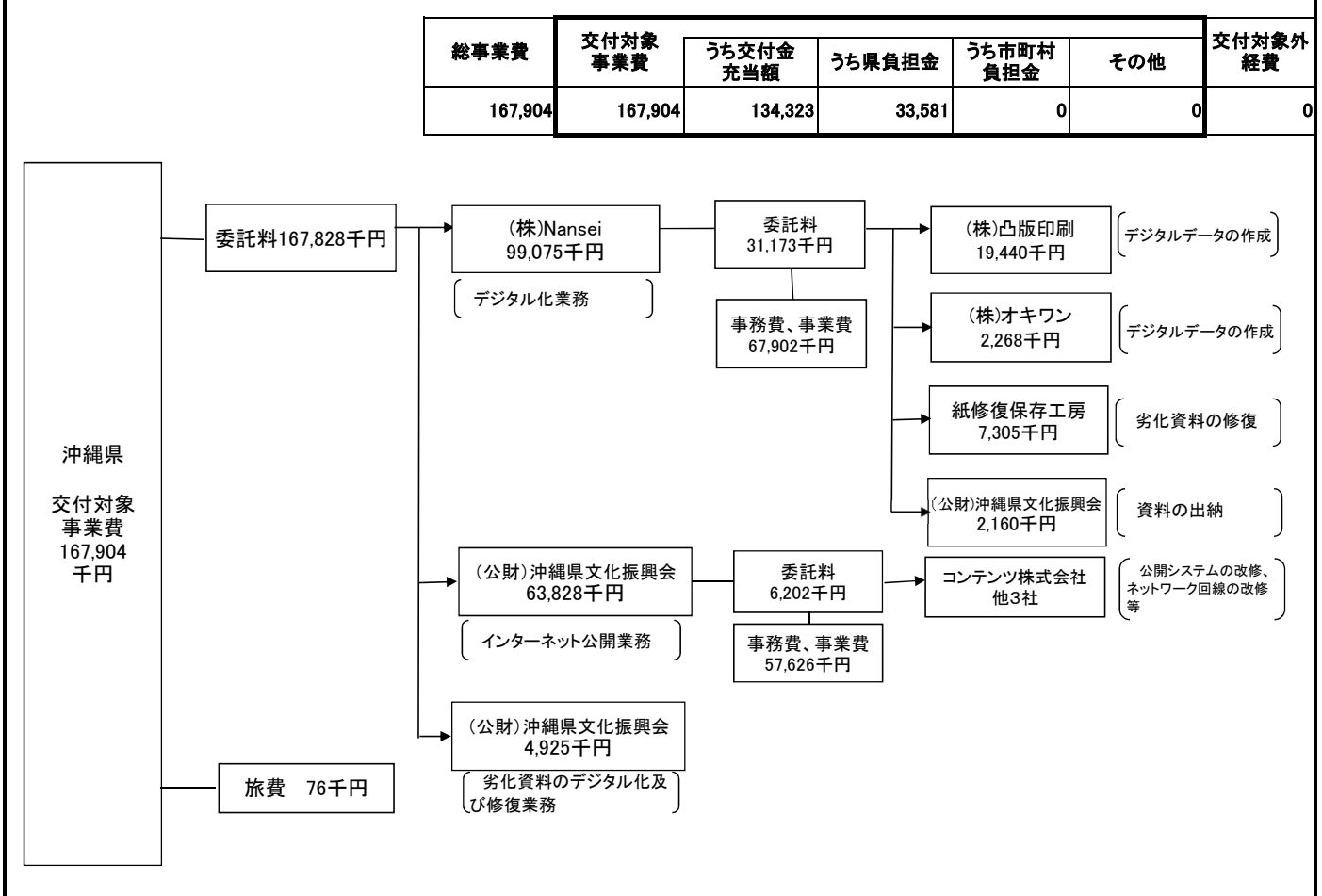
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2	琉球政府文書デジタル・アーカイブズ推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	総務部 総務私学課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	離島住民を含め多くの県民が琉球政府文書を利用できるようにするため、紙資料をデジタル化し、インターネットで閲覧できるようにする。劣化の激しい資料については、デジタル化の前に修復を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	66,794	—	144,000	—	145,044
		(b) 予算現額	66,795	—	144,000	—	168,204
		(c) 増減額 (b-a)	1	—	0	—	23,160
		(d) 前年度繰越額	0	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		66,795	—	144,000	—	168,204
	B. 執行済額		64,363	—	137,570	—	167,904
	うち交付金充当額		51,490	—	110,056	—	134,323
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		96.4%	—	95.5%	—	99.8%
予算の状況の説明		・大判資料(地図や図面等)対応スキャナーの導入等に要する経費の補正による増額					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	デジタルデータの作成	目標	384,000頁	11,520簿冊	17,280簿冊	17,280簿冊	
		実績	384,010頁	23,356簿冊	25,701簿冊	24,421簿冊	
	個人情報の確認・マスキング	目標	—	2,300簿冊	8,000簿冊	8,000簿冊	
		実績	—	2,326簿冊	8,040簿冊	8,318簿冊	
	修復簿冊数	目標	—	14簿冊	1,000簿冊	1,000簿冊	
実績		—	3簿冊	1,927簿冊	3,117簿冊		
達成状況説明	・デジタルデータの作成は、事業の進捗を定期的に確認し目標値を達成した。 ・簿冊に含まれる個人情報の確認とマスキング処理についても目標値を達成した。 ・撮影前後の綴じの処理時や撮影時に破損するおそれのある簿冊の修復についても目標値を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(25年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	離島住民を含む県民の利用に向けた琉球政府文書のデジタル化の推進 年間アクセス数	目標	—	—	389	5,300	—
		実績	—	—	4,587	40,319	—
	離島住民を含む県民の利用に向けた琉球政府文書のデジタル化の推進 公開簿冊数	目標	—	—	2,300	6,800	—
		実績	—	—	125	3,612	—
進捗状況説明	・インターネット公開システムの検索性向上のための改修を行ったため、インターネット上の公開簿冊数については、実績が3,612簿冊と未達成となっているが、検索性の向上と資料解説が充実したことにより、年間アクセス数は目標値を上回る40,319アクセスとなった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球政府文書の保存やデジタル化及びインターネット公開については、沖縄県公文書館の管理運営を委託されている指定管理者との連携が不可欠であるため、県、事業者、指定管理者との協力体制を図る必要がある。平成28年度からは、公文書館指定管理者がインターネット公開業務を新たに受託したところであり、デジタル撮影事業者も含めた協力体制が必要となっている。</li> <li>・平成28年3月からデジタル化資料の一部をインターネットで公開している。公開する資料の優先順位や解説を充実させる資料については、利用者のニーズを把握して実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートや公開資料へのアクセス状況を参考に、引き続き公開資料と解説の充実を図る。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施にあたっては、引き続き、県、事業受託者及び指定管理者との定例会等を実施し、課題を共有し改善策について協議する。</li> <li>・デジタル化する資料、公開する資料及び解説等を充実させる資料については、公開システムへのアクセス状況や利用者アンケートの結果を参考にするなど、利用者のニーズを分析して優先順位を決定する。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、一般競争入札、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって妥当な方法により選定した。 ○予算規模は、目標を達成するために必要とされる適正な規模となっている。 ○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	221	しまくとぅば普及継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施（予定）年度	平成 26 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	沖縄文化の基層である「しまくとぅば」を次世代へ普及・継承するため、全県的かつ横断的な普及活動や県民運動等を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,462	—	28,851	0	54,185
		(b) 予算現額	26,462	—	28,851	0	95,982
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	41,797
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	26,462	—	28,851	0	95,982
	B. 執行済額		25,856	—	24,075	0	91,690
	うち交付金充当額		20,684	—	19,260	0	73,352
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		97.7%	—	83.4%	—	95.5%
予算の状況の説明		<p>・平成27年度より当初予算額が増えているのは、「しまくとぅばの日」に関する条例制定10周年の記念イベント開催と、補助事業の開始による。また、補正は、しまくとぅばに関する広報テレビCM等を放映するための経費の増額のため。</p> <p>・執行率は、95.8%で、旅費等の執行残による。</p>					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	しまくとぅば県民大会の開催	目標	—	実施	実施	実施	
		実績	—	実施	実施	実施	
	しまくとぅば読本の増刷	目標	—	小5 18,000部 中2 18,000部	小5 17,500部 中2 17,500部	小5 17,500部 中2 17,500部	
		実績	—	小5 18,000部 中2 18,000部	小5 17,500部 中2 17,500部	小5 17,500部 中2 17,500部	
	しまくとぅばの普及に携わる人材養成講座の開催	目標	—	—	10地域	10地域	
		実績	—	—	10地域	9地域	
	県民意識調査等の実施	目標	—	—	—	実施	
		実績	—	—	—	実施	
達成状況説明	<p>・県民大会の開催、読本の増刷、人材養成講座の開催、県民意識調査の実施など、計画していた事業については、すべて実施することができた。</p> <p>・人材養成講座については、10地域において実施予定であったが、1地域で講座の時期や内容など講師等との調整などがうまくいかず実施できなかったため、9地域での実施となった。</p>						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	県民大会参加者数	目標	—	600人	600人	600人	
		実績	—	610人	780人	220人	
	読本の増刷	目標	—	小5 18,000部 中2 18,000部	小5 17,500部 中2 17,500部	小5 17,500部 中2 17,500部	
		実績	—	小5 18,000部 中2 18,000部	小5 17,500部 中2 17,500部	小5 17,500部 中2 17,500部	
	普及人材講座の開催	目標	—	—	10地域	10地域	
		実績	—	—	10地域	9地域	
	しまくとぅばをあいさつ程度使用する割合	目標	—	—	—	61%	
		実績	—	—	—	54.1%	
	進捗状況説明	<p>・県民大会の参加者数については、今年度が「しまくとぅばの日に関する条例10周年」だったことから、NPO法人や普及団体等が記念イベントを開催するなど、類似のイベントの開催により参加者が分散したこと、今年度のしまくとぅばの日(9月18日)が日曜日で運動会など地域行事と日程が重なったことなどにより、目標値に届かなかった。</p> <p>・しまくとぅばをあいさつ程度使用する割合については、しまくとぅばを使用する年代が高齢化していることなどから目標に届かなかったと考えられる。</p>					

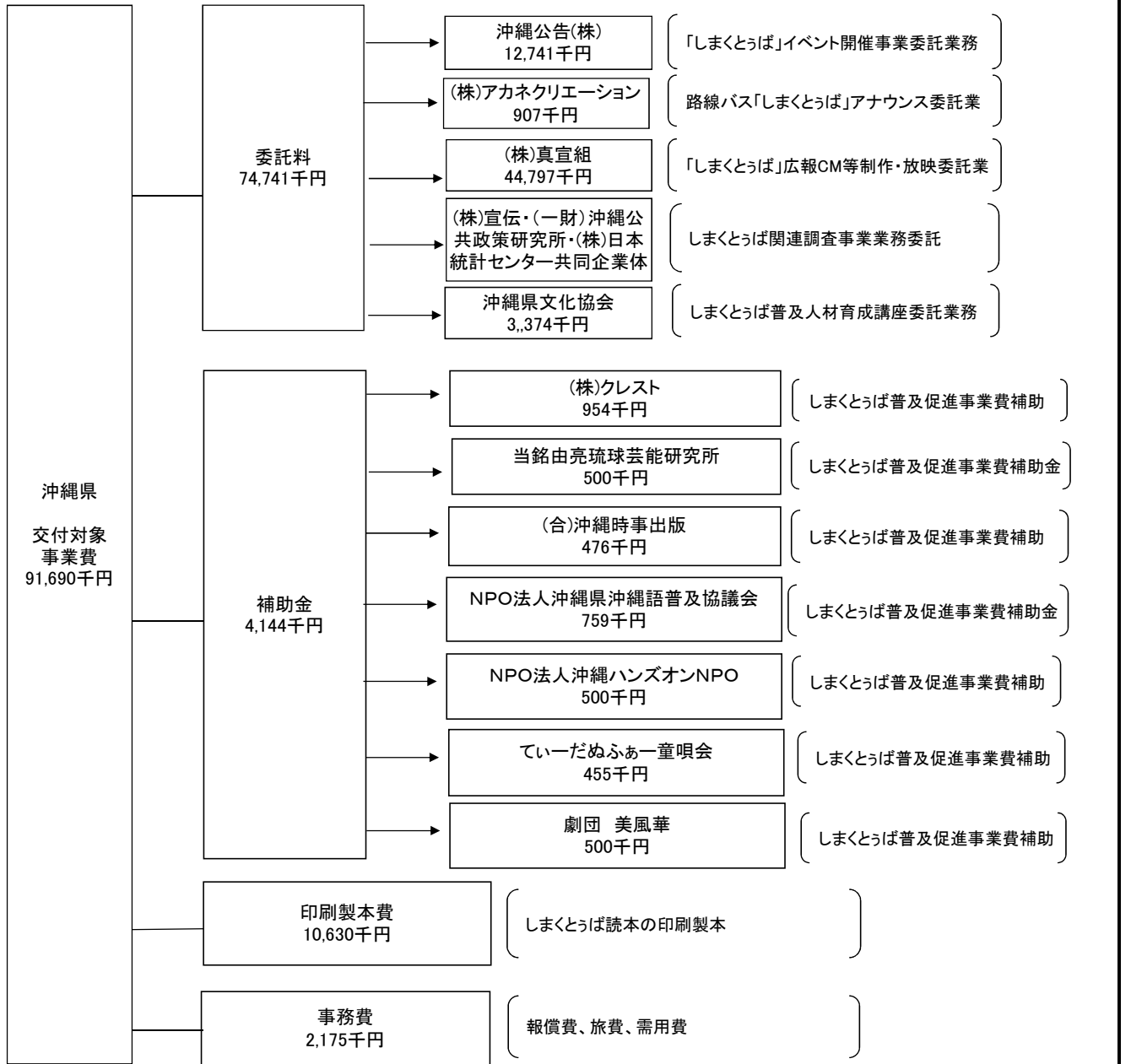
H28-No.221

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民大会への参加者を増加させる必要がある。</li> <li>・人材養成講座については、地域のニーズ沿った事業を実施する必要がある。</li> <li>・平成28年度に実施した県民意識調査においては、平成25年度に実施した調査に比べ、しまくとぅばを話せる割合が減っているため、これまで以上に普及継承への取組が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民大会への参加者を増加させ、効果的な大会を開催するため、開催方法や内容について工夫する。</li> <li>・人材養成講座については、地域のニーズを把握し、円滑に事業が実施できるようにする。</li> <li>・若年層への効果的なアプローチを検討するとともに、話者の掘り起こしも行う。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民大会の開催については、ターゲットを絞った内容を検討したり、広報の方法を検討するなど、よりよい大会が開催出来るよう工夫し、参加者の増加を図る。</li> <li>・人材養成講座については、地域のニーズをもっと詳細に把握するため、関係団体等と密に連絡調整を行い、効果的な話者の育成を行う。</li> <li>・地域においてしまくとぅばを話せる話者を育成するため、人材養成講座を実施するほか、民間の取り組みを支援するなどして県民への普及を推進する。</li> <li>・また、若年世代に対して、まずはあいさつからしまくとぅばを使用してもらうため、学校での読み聞かせの実施や、クラブ活動の支援など普及のための仕組みを検討する。</li> </ul>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
91,690	91,690	73,352	18,338	0	0	0



資金の 用途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託先及び補助事業者については、公募型プロポーザル方式等により実績やノウハウなどを勘案した上で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・補助事業については、NPOなどが主な補助先であるが、補助率は8割となっており、2割は自己負担していることから負担関係は妥当であると考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・委託額や補助額を確定するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費だったかなどを検査した結果、適正だったと認められた。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

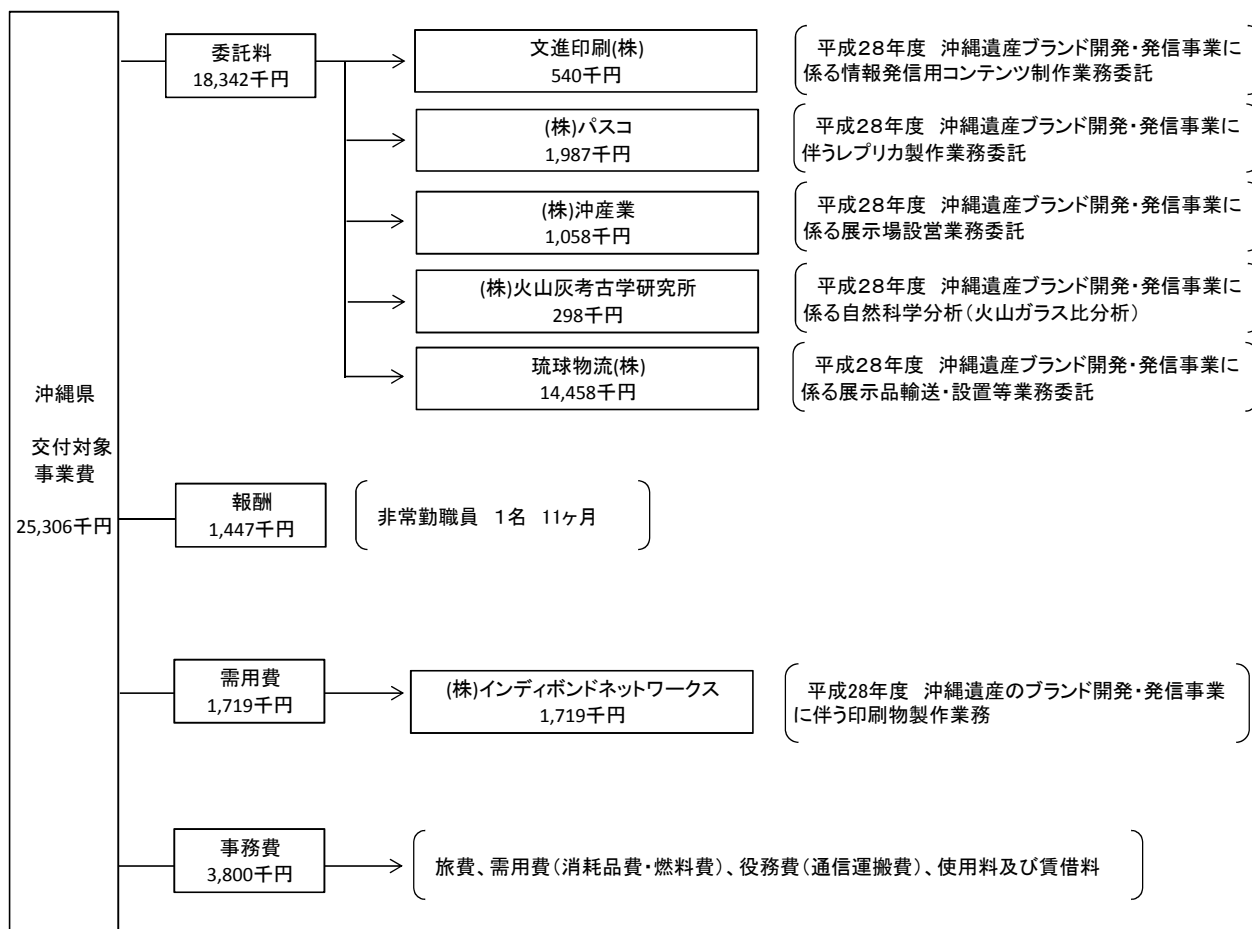
## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	222	沖縄遺産のブランド開発・発信事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	文化観光スポーツ部	博物館・美術館	事業実施 (予定)年度	平成 24 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	遺跡を利用した新たな観光資源の創出及び県立博物館の価値の増大を図るため、旧石器人骨「港川人」に匹敵する旧石器人骨の発掘調査及び調査成果の発信を行う。具体的には南城市サキタリ洞遺跡等の発掘調査・研究と出土品の展示公開等を通して情報発信を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位：千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	22,962	—	24,995	0	30,529
		(b) 予算現額	22,962	—	24,995	0	30,531
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	2
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		22,962	—	24,995	0	30,531
	B. 執行済額		16,272	—	20,925	0	25,306
	うち交付金充当額		13,017	—	16,740	0	20,245
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		70.9%	—	83.7%	—	82.9%
予算の状況の説明		予算額は、展示会開催にかかる委託料等の経費を計上したところであり、平成28年度に比べ5,534千円増額となった。需用費(印刷製本費)や委託料等の入札残により5,225千円の不用額が生じているが、事業の目的は達成できており、概ね適正に予算執行できたと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	旧石器人類発掘調査の実施	目標	発掘の実施	発掘の実施	発掘の実施	調査の実施	
		実績	発掘の実施済	発掘の実施済	発掘の実施済	調査の実施済	
	情報発信の実施(特別企画展の開催(沖縄県立博物館)、インターネット等における情報発信)	目標	情報発信(展示会等)の実施	情報発信(展示会等)の実施	情報発信(展示会等)の実施	情報発信(企画展等)の実施	
実績		情報発信(展示会等)の実施済	情報発信(展示会等)の実施済	情報発信(展示会等)の実施済	情報発信(企画展等)の実施済		
達成状況説明	平成24年度から平成27年度に行った南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査で4件の人骨(更新世=旧石器時代のもの3件、および9千年前以前のもの1件)を発見し、それら出土品についての調査研究、化学分析を行った。 また、平成28年度は、当館で「港川人の時代とその後」と題した特別展を開催したほか、HPやYouTubeなどのインターネットを使い、これまでの成果を広く情報発信した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値 (29年度)
	旧石器人骨関係イベント(特別展等)への参加者数	目標	—	イベント参加者数 約1,000名	イベント参加者数 約3,000名	イベント参加者数 約5,000名	イベント参加者数 累計12,000名
		実績	—	イベント参加者数 1,046名	イベント参加者数 3,014名	イベント参加者数 5,253名	
	【参考指標】 旧石器人骨化石の発見	目標	—	人骨化石の発見	人骨化石の発見	—	人骨化石の発見 4件
		実績	—	人骨化石の発見 済	人骨化石の発見 済	—	
進捗状況説明	これまでの発掘調査から世界最古となる約2万3千年前の旧石器時代の貝製の釣針や漆器等が発見された。また、調査結果が世界的な学術誌に掲載され新聞等で大々的に報道されたことにより、沖縄県立博物館・美術館で開催した特別展「港川人の時代とその後」は、会期中の県内外の有識者によるシンポジウム等を含め、5,253人(51日間)の入場者があった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出土品については「火山ガラス比分析」による年代決定を行ったが、より厳密に年代決定をするためには、別の手法による分析調査や比較調査等により詳細な調査を実施する必要がある。</li> <li>・文化的な観光資源としての活用のため、県内への広報・発信だけでなく、県外にも積極的に事業成果を発信する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別手法による年代測定や先進地での比較調査を行い、より厳密な年代特定を行う。</li> <li>・県外で巡回展を開催し、一般・学術関係者に対して事業成果の積極的な発信を行う。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発見された出土品について、平成28年度の火山ガラス比分析に加え、平成29年度は放射性炭素による年代測定を実施する。また、旧石器人骨遺跡研究の世界的な先進地域であるドイツでの出土品の比較研究も実施し、より厳密な年代特定を行い、これまでの発掘・研究成果をまとめた報告書を発行する。</li> <li>・県外で巡回展及び関連イベントを開催するとともに、ポスター、パンフレット等広報を充実させ、県外の一般、学術関係者へ発信を行う。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
25,306	25,306	20,245	5,061	0	0	0



資金の流し、点検、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託事業者は競争入札によって選定しており、妥当であったと考えている。</li> <li>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	225	デジタルミュージアム推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	文化観光スポーツ部	博物館・美術館	事業実施(予定)年度	平成 28 ~ 32 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	従来の博物館機能で対応できなかった無形遺産をデジタル化して収集・保管する。また、収集した資料をもとにデジタル展示コンテンツを開発し、Web上や常設展示室で公開することで、遠隔地へのサービス提供充実や来館者誘致、顧客満足度向上を実現する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	0	-	0	0	9,284
		(b) 予算現額	0	-	0	0	9,788
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	0	0	504
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		0	-	0	0	9,788
	B. 執行済額		0	-	0	0	8,548
	うち交付金充当額		0	-	0	0	6,838
	C. 次年度繰越額		0	-	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		-	-	-	-	87.3%
予算の状況の説明		新規事業として、民話データのデータベース作成及び優良民話の選定にかかる委託料等の経費を予算計上した。非常勤職員の報酬及び費用弁償等の1,240千円の不用額が発生したが、概ね適正に予算執行できたと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	民話テープ及びデジタルデータの収集	目標	-	-	-	民話テープ及びデジタルデータの収集	
		実績	-	-	-	収集済	
	同上整理(アナログテープとデジタルデータの照合)、登録	目標	-	-	-	アナログテープとデジタルデータの照合・登録	
		実績	-	-	-	照合・登録済	
	民話データの内容確認とデータベース作成	目標	-	-	-	民話データの内容確認とデータベース作成	
		実績	-	-	-	内容確認済 データベース作成済	
	動画コンテンツ制作に向けた優良民話の選別	目標	-	-	-	優良民話80件選別	
		実績	-	-	-	優良民話80件選別済	
達成状況説明	民話テープ及びデジタルデータを収集し、内容の照合・登録を行い、3万3千件の伝承話音声資料のデータベースを作成した。また、民話データの内容を確認し、地域、内容、方言、話者、音質等を考慮し、動画コンテンツ化に適した優良民話80話を選定委員会で決定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	収集した3万3千件の民話の詳細なデータベースを作成し、適切な保存を図るとともに検索を可能にする	目標	-	-	-	データベース作成	
		実績	-	-	-	データベース作成済	
	80件の優良民話を選択することにより、動画コンテンツ製作の方向性を決め、次年度以降の実施設計につなげる基礎材料を調える	目標	-	-	-	80件選定	
		実績	-	-	-	80件選定済	
	進捗状況説明	民話データ3万3千件の内容を確認し、地域、内容、話者等の属性を含めたデータベースを作成したことで、検索が可能となった。また、民話データの内容を確認し、地域、内容、方言、話者、音質等を考慮し、動画コンテンツ化に適した優良民話80話を選択した。					



取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選定した80話については、民話や話者の方言がその地域のものか検証する必要があるため、話者の出身地や職業等詳細な情報確認が必要となる。</li> <li>・製作する動画コンテンツは、時代考査、原画制作の場面設定、方言の監修等を十分に行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民話データ収集当時の調査カード等を参考に情報確認を行い、コンテンツ製作に反映させる。</li> <li>・動画コンテンツの製作においては、監修者を複数名おき、時代考査や方言の監修を行うほか、効果的な場面展開等わかりやすいコンテンツ製作を検討していく。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から開始する動画コンテンツの製作にあたっては、その地域の文化等を正確に映像化するため現地調査を行う。また、時代考査や方言監修のほか映像の見せ方等を識者による監修を行いながら進める。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
8,548	8,548	6,838	1,710	0	0	0
<p>The flowchart illustrates the distribution of the 8,548 thousand yen grant. It starts with 'Okinawa Prefecture' (沖縄県) which provides 8,548 thousand yen. This is split into two main categories: 'Commission Fee' (委託料) of 7,776 thousand yen and 'Remuneration' (報酬) of 772 thousand yen. The commission fee is paid to the 'Designated Non-Profit Activity Legal Entity Okinawa Intergenerational Oral Tradition Center' (特定非営利活動法人 沖縄伝承話資料センター) for 7,776 thousand yen, which is used for 'Oral Tradition Audio Data Cataloging and Digital Content Selection Business Commission' (伝承話音声資料の目録作成及びデジタルコンテンツ化選別業務委託). The remuneration is paid to 'Part-time Staff' (非常勤職員) for 772 thousand yen, covering 1 staff member for 6 months.</p>						
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託事業者は競争入札によって選定しており、妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。			○費目・使途については必要最小限の作業内容で事業目的を達成したことを確認し、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

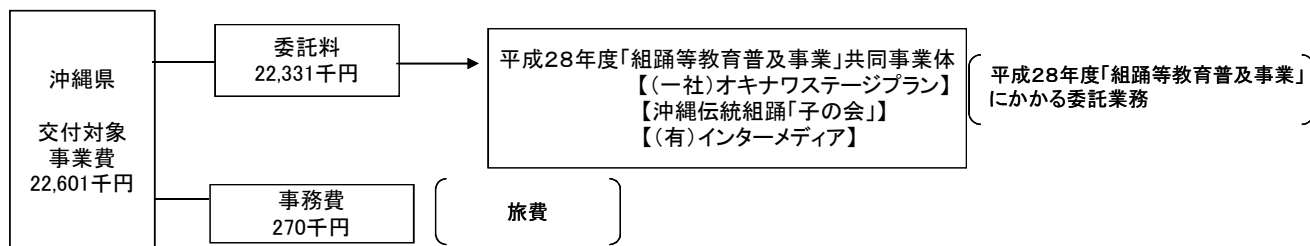
事業番号・事業名	264	組踊等教育普及事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施 (予定)年度	平成 26 ~ 30 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる 環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	組踊とこれに関連する琉球舞踊、琉球古典音楽等の無形文化財について、教育普及を推進し次世代への保存継承を図るため、県内離島地域の児童生徒に鑑賞させる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	22,525	—	22,661	0	22,660
		(b) 予算現額	22,525	—	22,661	0	22,660
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		22,525	—	22,661	0	22,660
	B. 執行済額		20,635	—	22,564	0	22,601
	うち交付金充当額		16,508	—	18,051	0	18,081
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		91.6%	—	99.6%	—	99.7%
予算の状況の説明		・予算額は組踊等沖縄伝統芸能公演に係る委託料及び事業担当者の旅費である。 ・執行率は99.7%であり、旅費による不用額(59千円)が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	児童生徒対象の組踊等教育普及公演実施 7回	目標	—	7回	7回	7回	
		実績	—	7回	8回	8回	
		目標					
実績							
達成状況説明	・組踊等沖縄伝統芸能を鑑賞する機会の少ない離島の児童生徒を対象とした公演を8回実施した。 ・当初の目標より1回公演数を増やして実施することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値 (30年度)
	組踊等に関する理解・関心を深めた児童生徒数が、公演を鑑賞した児童生徒の70%である4,500人中3,150人	目標		2,450人	1,050人	3,150人	11,550人
		実績		1,590人	1,071人	1,421人	—
		目標					
		実績					
進捗状況説明	・アンケート調査結果から、組踊等沖縄伝統芸能を鑑賞した児童生徒(1,597人)の内、小学校児童が86%、中学校が90%、高校生が94%、全体で89%(1,421人)の児童生徒が組踊に関する理解・関心を深めているが、鑑賞した児童生徒の数が当初の予定より少なかったため、目標を達成できなかった。 ・鑑賞者数が目標数に達せなかった理由としては、希望校の学校規模が小さかったことが挙げられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞会開催希望調査を実施したところ、黒島、西表から希望があり、小規模校での公演を実施したため、鑑賞児童生徒数が伸びなかった。</li> <li>在校生が多い県立高等学校等の応募が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模校に偏らない選定の工夫が必要である。</li> <li>県立高等学校での開催や近隣校で合同鑑賞会を実施する等、集客を工夫する必要がある。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村教育委員会と連携をとり、複数校で合同鑑賞会の実施を行う等の取り組みが必要である。</li> <li>在校生が多い県立学校への広報も強化して鑑賞者数の増加を図る。</li> <li>人口の多い石垣島や宮古島での開催を行い鑑賞校の増加をはかる。</li> <li>学校における次年度教育課程計画の作成前に鑑賞校の決定を行い、教育課程に位置づけられた学校行事となるようにする。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
22,601	22,601	18,081	4,520	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により組織、実績、知識等を勘案した上で選定し、適切な事業が実施された。</li> <li>○委託事業者からの実績報告及び、支出の費目、使途を確認し、その内容から予算が適正に執行されていた。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	265	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	琉球史の教育への利活用や研究の進展等を図るため、琉球王国の外交文書「歴代宝案」や交流史に関する資料を編集・刊行するとともに、保全・活用のため、デジタル化・テキスト化を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,992	—	44,029	0	44,757
		(b) 予算現額	39,992	—	44,029	0	44,757
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計 (b+d)	39,992	—	44,029	0	44,757
	B. 執行済額		38,369	—	41,408	0	41,979
	うち交付金充当額		30,695	—	33,126	0	33,583
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		95.9%	—	94.0%	—	93.8%
予算の状況の説明		主に入札残・執行残によるもので、主なものは印刷製本費の入札残(1,332千円)・費用弁償の執行残(526千円 非常勤職員の通勤に係る交通費の減)等である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	歴代宝案編集委員会の開催1回 歴代宝案編集委員会作業部会の開催2回	目標	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	
		実績	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	編集委員会1回 作業部会2回	
	歴代宝案原稿作成1900枚	目標	原稿作成2264枚	原稿作成2200枚	原稿作成1500枚	原稿作成1900枚	
		実績	原稿作成2264枚	原稿作成2200枚	原稿作成1500枚	原稿作成1700枚	
達成状況説明	・歴代宝案編集委員会は予定通り開催し、委員の意見を『歴代宝案』の編集刊行に資することができた。 ・『歴代宝案』訳註本の原稿作成については、原稿作成者の進捗を勘案し、一部当初の予定枚数を変更した。なお、変更した原稿作成の枚数については、平成29年度に行うこととした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	琉球王国外交文書等の編集刊行6冊	目標	5冊	5冊	5冊	6冊	5冊
		実績		5冊	5冊	8冊	
	刊行物の関係機関(県内外・国外)への配布900件	目標	900件	900件	900件	900件	900件
		実績		935件	964件	928件	
	琉球王国史料等のデジタル化700頁	目標	700頁	800頁	700頁	700頁	700頁
実績			945頁	1,034頁	1,383頁		
進捗状況説明	・歴代宝案関係刊行物として、『歴代宝案』校訂本第15冊、『歴代宝案』訳註本第4冊、『歴代宝案訳註本第4冊語注一覧表』、『中琉関係歴史档案』道光朝(6)(7)(8)の6冊のほか、『『歴代宝案』を読むための用語解説』、『『歴代宝案』校訂本解説集』の計8冊を刊行した。 ・刊行物の配布対象機関件数は900件を目標とし、県内中学校・高等学校・大学・市町村図書館および県外・国外の大学・研究機関・研究者など928件の配布を行い、目標を達した。 ・デジタル化(テキスト化)は700頁を予定していたが、『清代中琉関係档案四編』649頁(枚)以外に、委託準備作業が調ったことにより、『歴代宝案 訳註本第1冊』734頁(枚)のテキスト化が可能となり、1,383頁の成果を得た。						

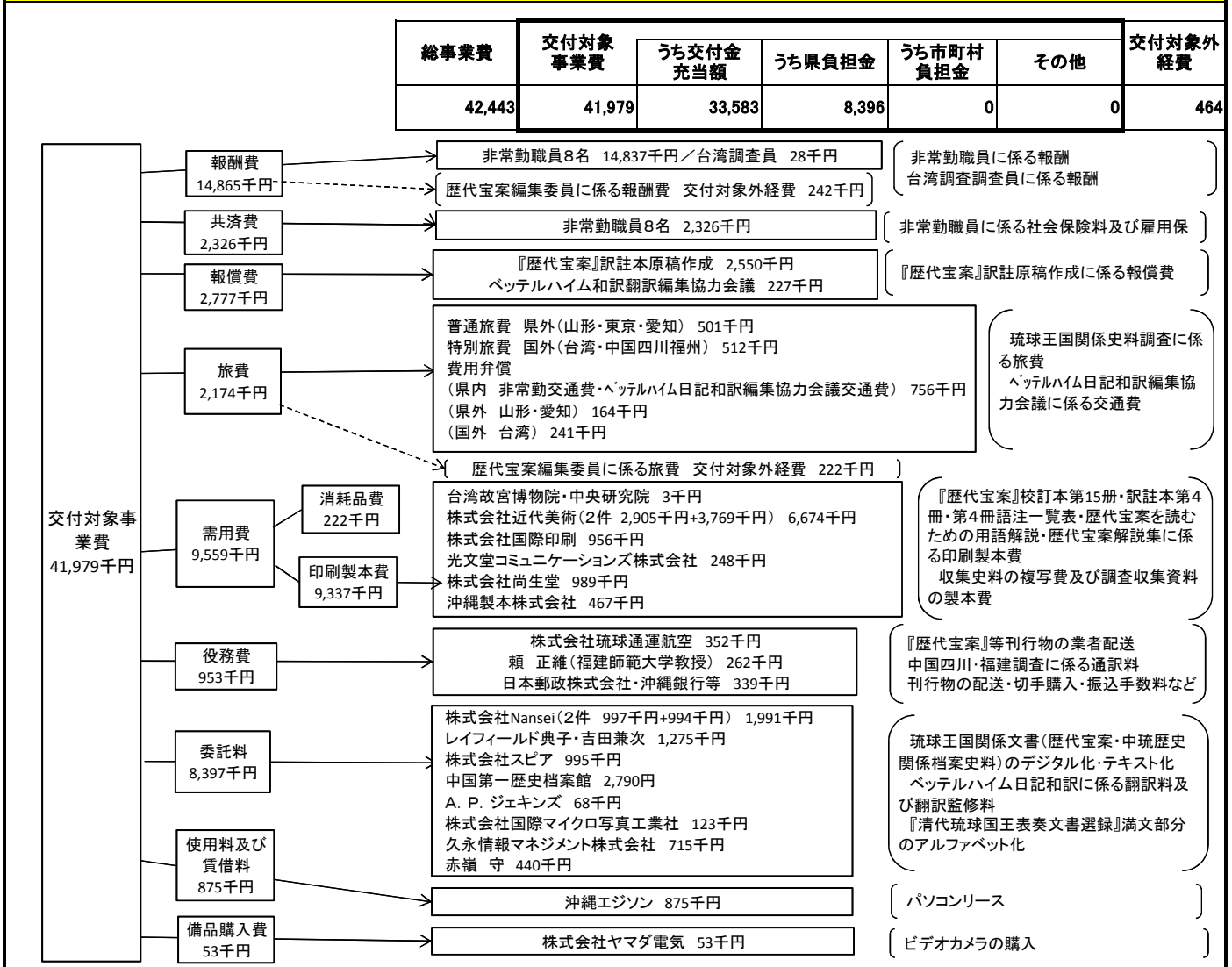
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>『歴代宝案』等の編集刊行はほぼ計画通りに進捗しているが、普及活動はまだまだ十分ではない。</li> <li>交流関係資料であるベッテルハイム日記の翻訳について、編集協力会議を行い、内容検討を進めているが、進捗が遅れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球王国の外交文書である『歴代宝案』をひろく普及するため、刊行物の積極的な紹介が必要である。</li> <li>ベッテルハイム日記の翻訳事業について、内容検討を効率よく行うため、編集協力会議の持ち方の検討が必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

『歴代宝案』等の刊行物の普及について、シンポジウムの開催、マスコミを活用するほか、教職員に授業で教材として扱ってもらえるよう研修会などで説明を行う等、刊行物の紹介を行う。

ベッテルハイム日記の編集協力会議について、内容の検討を効率よく進めるため、事前の協議事項の選定・事務局案の作成等を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は業務の特殊性・専門性・実績等を勘案し選定しており、妥当であった。 ・費目・用途については、事業目的に即して執行しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

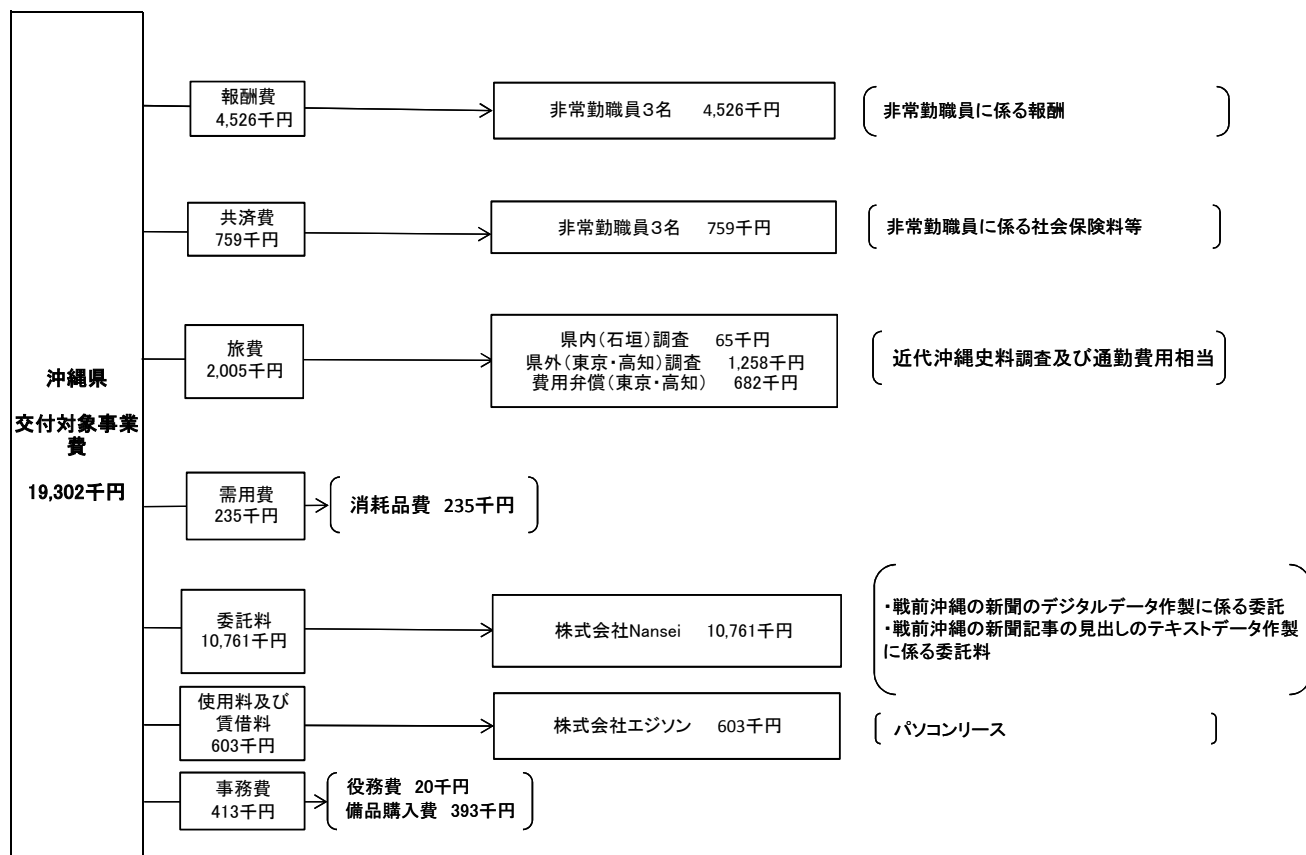
## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	266	近代沖縄史料デジタル化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア			
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施(予定)年度	平成 28 ~ 33 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	沖縄戦で焼失した近代沖縄の史料の収集とデジタル複製による保存、インターネット公開や資料集の刊行を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	0	—	0	0	20,143
		(b) 予算現額	0	—	0	0	20,143
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		0	—	0	0	20,143
	B. 執行済額		0	—	0	0	19,302
	うち交付金充当額		0	—	0	0	15,441
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		—	—	—	—	95.8%
予算の状況の説明		委託料やパソコンリースにかかる入札残(555千円)、非常勤職員の報酬残(交付決定後の月途中からの採用であったため)などにより不用額が発生したが、当初計画の通り事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	○近代沖縄史料のデジタル複製の調整・実施	目標	—	—	—	デジタル複製の調整・実施	
		実績	—	—	—	デジタル複製の調整・実施	
	○既収集資料の校正・編集を行う	目標	—	—	—	既収集資料の校正・編集	
		実績	—	—	—	既収集資料の校正・編集	
達成状況説明	・近代沖縄史料(戦前の琉球新報:明治31年4月~明治41年12月)のデジタル複製について、所蔵機関の国立国会図書館と調整を行い、実施することができた。 ・新聞の記事見出しのテキストデータの校正を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	国立国会図書館・八重山博物館の戦前沖縄の新聞のデジタル化	目標	—	—	—	9000面	—
		実績	—	—	—	9500面	—
	戦前沖縄新聞の見出し校正	目標	—	—	—	明治31年~明治38年分	—
		実績	—	—	—	明治31年~明治38年分	—
	進捗状況説明	・八重山博物館の資料は当該機関により既にデジタル化されていたため実施しなかったが、本事業におけるデジタル化対象資料の点数が最も多い国立国会図書館所蔵の戦前沖縄の新聞について、全体の3分の1にあたる明治31年4月~明治41年12月の琉球新報のデジタルデータを作製することができた。 ・記事の見出し校正は明治31~38年(60,763件)を行った。また、記事の検索効率を高めるため、キーワード等のデータ作成の必要性が生じ、明治31~33年7月(14,821件)は検索用のキーワード作成も行った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・記事の見出しだけでは内容に即した検索ができないため、キーワード等を付加して利用者の記事検索の利便性を高めることとした。これにより一つの記事にかかる作業時間が増加した。</p>	<p>・記事の検索キーワード等作成に対応するため、非常勤を1人増の4人とする。しかし、キーワード等作成についてさらなる効率化を図る必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・記事検索キーワード作成の効率化をはかるとともに、H29年度は非常勤職員を1名増員し、見出しのテキストデータの校正、検索キーワード等の作成を行う。                  ・インターネット公開に向けて、作成したデジタル画像データと見出しテキストデータの関連づけや、ウェブサイト開設にむけ関係部署との調整を行う。</p>		

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
19,302	19,302	15,441	3,861	0	0	0



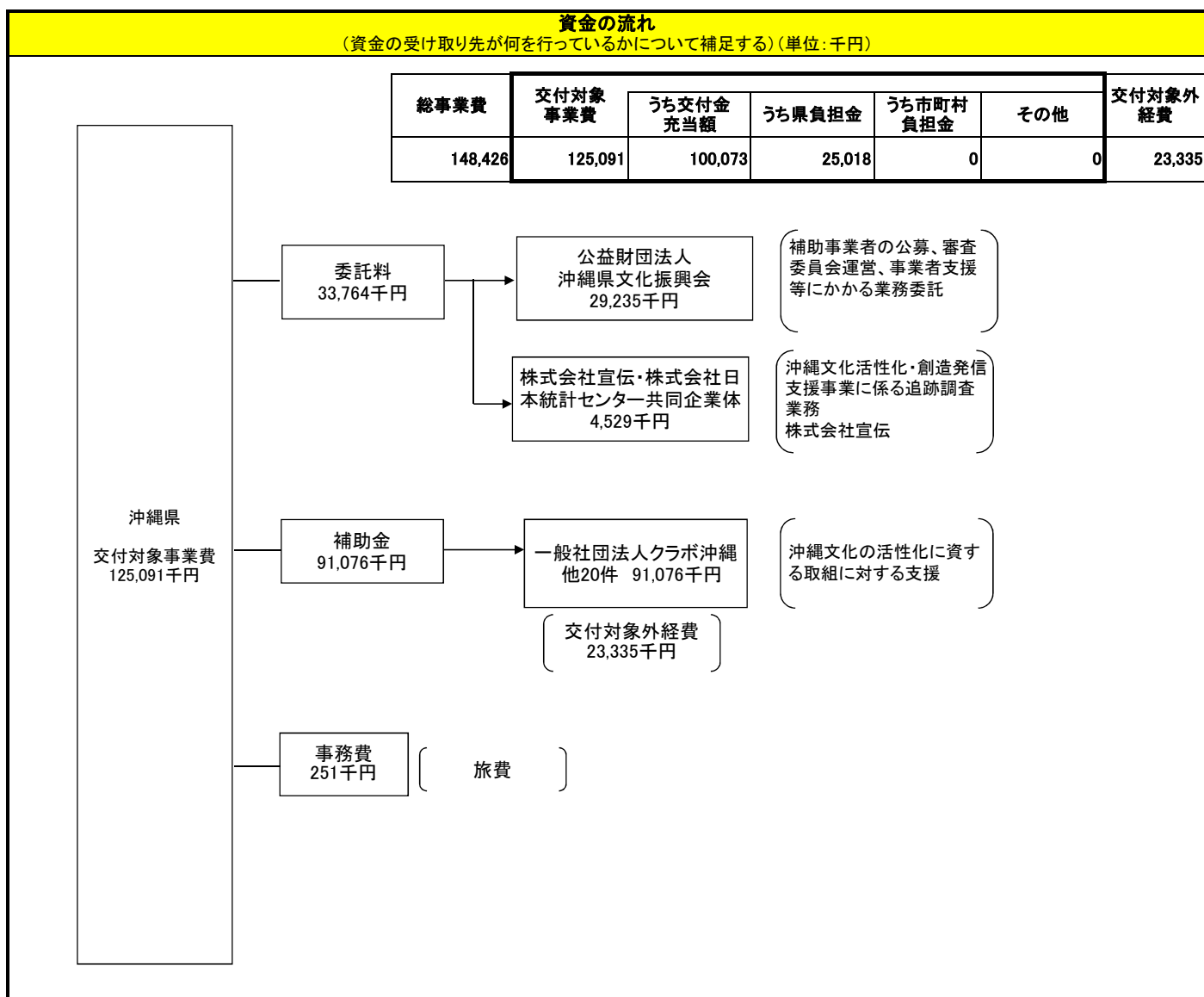
資金の流 れ、費 目 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入札で選定した。業務の特殊性・専門性の高さもふまえ妥当であったと考えている。 ○費目・用途については、事業目的に即しており、額についても支出などに関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	218 沖縄文化活性化・創造発信支援事業	事業実施（予定）年度 平成 24 ～ 28 年度		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ 第3章-1-(4)-ウ 第3章-1-(4)-エ 文化の担い手の育成 文化活動を支える基盤の形成 文化の発信・交流		
				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)		
担当部課名	文化観光スポーツ部文化振興課						
事業内容	本県の多様で豊かな地域の伝統芸能・文化の保存継承、芸術文化の創造発信を行うため、文化資源を活用した芸術文化の創造発信に取り組む団体等に支援する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実に及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	188,458	—	148,485	0	133,185
		(b) 予算現額	182,451	—	148,485	0	133,185
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 6,007	—	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		182,451	—	148,485	0	133,185
		B. 執行済額	170,937	—	139,131	0	125,091
		うち交付金充当額	136,749	—	111,305	0	100,073
	C. 次年度繰越額	0	—	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	93.7%	—	93.7%	—	93.9%	
予算の状況の説明	<p>・予算額は旅費、委託料、補助金を計上。          ・執行率は93.9%であり、補助金の執行残による不用額7,581千円が主である。不用の理由は補助事業21件の補助事業執行残によるもの。</p>						
活動目標（指標） 及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・事業説明会において参加団体との個別相談時間を設け、応募団体の掘り起こしと企画内容のブラッシュアップを図る。	目標	—	—	—	個別相談の実施	
		実績	—	—	—	個別相談実施件数：44件	
	・遠隔離島において事業の主旨目的、申請方法などの事業説明会を開催する。	目標	—	—	—	遠隔離島での事業説明会開催	
		実績	—	—	—	開催数：2回	
達成状況説明	<p>・県内の文化関係団体向けに事業説明会を開催し、本事業の事業内容の説明と公募開始の周知を行うことで応募団体の掘り起こしを図った。そのほか、本事業への応募を検討する団体向けに応募企画内容等についての個別相談会を5日間にわたり実施し、延べ44件の相談に対応した。これにより応募企画内容のブラッシュアップを図った。          ・離島地域での応募団体の掘り起こしを図るため、事業説明会を宮古地域で1回開催し参加者数は10名であった。また、八重山地域で1回開催し参加者数は5名であった。</p>						
成果目標（指標） 及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	助成団体数	目標	—	—	26団体	23団体	—
		実績	—	—	27団体	21団体	—
	那覇圏域外助成団体の割合	目標	—	—	—	40%	—
		実績	—	—	—	28.5%	—
	進捗状況説明	<p>・平成28年度においては、前年度からの継続申請に加え4月と6月に公募を実施し計47件の応募があった。審査の結果、21団体の取組が採択され、成果目標の達成には至らなかった。引き続き応募団体の掘り起こしや応募企画内容等のブラッシュアップにより積極的に取り組む必要がある。採択団体への支援を通じて、マネジメント人材の育成や法人化等の組織強化につながったほか、異分野の団体との連携構築など多様な文化芸術活動のノウハウが蓄積され、文化関係団体の育成に貢献した。          ・那覇圏域外助成団体数（助成団体のうち占める割合）について、応募件数ベースでみると、応募件数47件のうち那覇市域外の件数は18件、総応募件数のうち占める割合は38.3%と成果目標である40%に近い数値となっている。一方、助成団体数ベースでみると、助成団体21件のうち、那覇市域外の団体は6件、助成団体総数のうち占める割合は28.5%と成果目標を下回っており、応募事業内容の審査等を経たことで那覇市域外の団体数が減少した結果となっている。引き続き那覇圏域外においても応募団体の掘り起こしや応募企画内容等のブラッシュアップにより積極的に取り組む必要がある。</p>					



取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの応募者の企画提案を支援し、県内文化関係団体の育成につなげる必要がある。</li> <li>・那覇市域に採択団体が集中しており、他の地域での文化芸術活動も促進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業説明会や応募期間中の個別相談以外にも事業趣旨の理解促進や応募企画内容のブラッシュアップを図る機会を設ける。</li> <li>・那覇市域外においても、応募事業者の掘り起しや、応募企画内容のブラッシュアップを図る機会を設ける。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、定期的に本事業に係る相談会を新たに開催し、新たな応募事業者の掘り起こし等を図る。</li> <li>・那覇市域外においても、本事業に係る相談会等を新たに開催し、新たな応募事業者の掘り起こし等を図る。</li> </ul>		



資金の用途の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公益財団法人沖縄県文化振興会は、他の文化関係機関との連携も視野にいれて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○株式会社宣伝・株式会社日本統計センター共同企業体については、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については交付要綱で補助率9/10(継続事業8/10)と定めており、妥当と判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	220	アーツマネージャー育成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ			
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成 25 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成		
事業内容	沖縄の多様な文化資源を活かした文化産業の創出と育成及び観光をはじめとした関連産業への経済的波及を目的に、経営的視点を持って文化芸術活動をマネジメントできる人材「アーツマネージャー」を育成する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	44,203	—	44,165	—	31,499
		(b) 予算現額	44,203	—	33,070	—	31,499
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	▲ 11,095	—	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		44,203	—	33,070	—	31,499
	B. 執行済額		31,142	—	28,413	—	28,838
	うち交付金充当額		24,914	—	22,730	—	23,071
	C. 次年度繰越額		0	—	0	—	0
	執行率 (%) (B/A)		70.5%	—	85.9%	—	91.6%
予算の状況の説明		・OJT派遣研修について代替要員の確保が困難なことなどから希望者が減少傾向にあることや、研修受入団体との研修期間の調整により派遣日数が6ヶ月に満たなかったことが、執行率が95%を下回った理由となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	研修派遣を早期実施できるよう検討し、県外文化芸術関係機関等への派遣人数 3名程度とする。 (派遣先:劇場、音楽堂など文化施設や実演、制作団体)	目標	—	5名	7名	3名	
		実績	—	7名	2名	2名	
	講座の開催回数 20回程度 (講座内容:文化芸術活動における企画立案、広報宣伝など)	目標	—	10回	10回	20回	
		実績	—	20回	17回	16回	
達成状況説明	・希望者から相談はあったが、派遣団体の代替要員の確保や派遣者の経済的負担、市町村職員は派遣できない等の理由により、研修派遣人数は目標を達成できなかった。研修者募集説明会や研修終了報告会等を通じて制度の周知を図り、掘り起こす必要がある。 ・講座内容に先進事例を取り入れるなど、より実践的な内容に編成したため講座回数は16回と目標の20回を達成しなかったが、受講人数は成果目標の400人を上回る延べ587名が受講した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	連続講座の受講生延べ 400人	目標		延べ300名	延べ300名	延べ400名	
		実績		延べ631名	延べ550名	延べ587名	
		目標					
		実績					
進捗状況説明	連続講座を延べ587名が受講し、成果目標は達成した。 また、全国から現場の第一線で活躍する様々なジャンルの実務者を講師に迎え、実演芸術の実施運営に関わる基本的な知識と様々な視点の講座を開講し、アーツマネージャー育成の観点から一定の効果は見られた。						

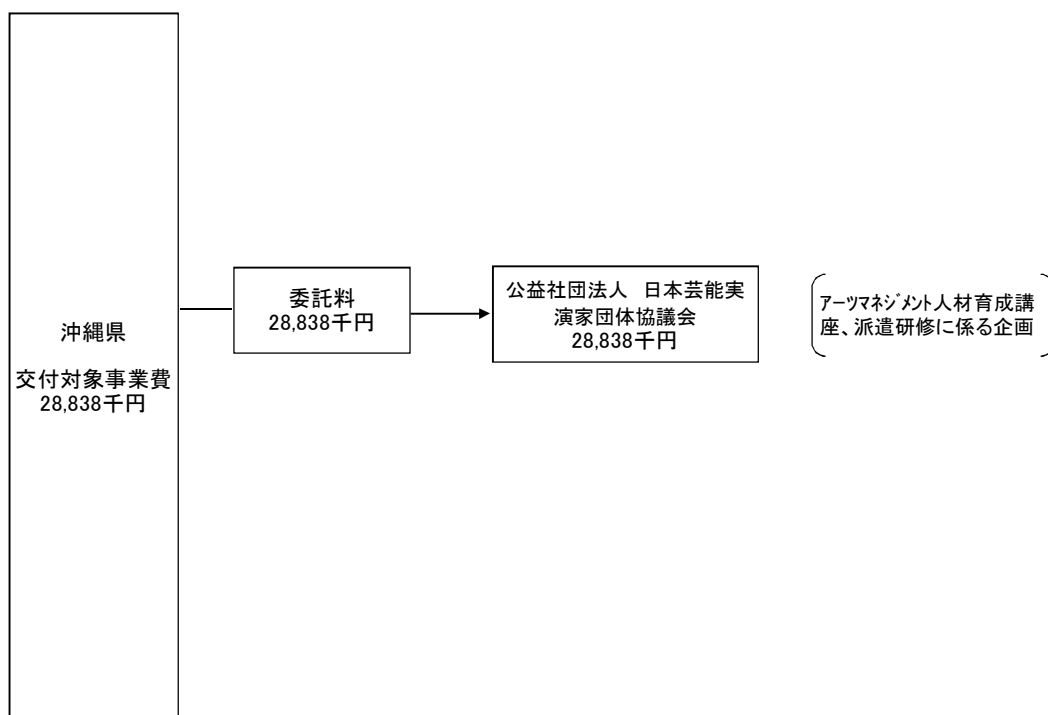
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・連続講座については、受講者数が目標を上回っているものの、OJT派遣研修については、代替要員の確保が困難なこと等から、希望者が減少傾向にある。</p>	<p>・市町村や公立文化施設等へ働きかけ、研修者の派遣終了後の活動等について、研修で得た知識や、そこで築いた人的ネットワーク等を活かして活躍している成功事例を関係者へ周知するとともに、マスコミを活用して広く県内に情報発信を行う事により、研修希望者の掘り起こしを行う。</p>

**今後の取り組み方針**

・講座や派遣研修へ多くの方が参加、応募するようホームページ等により事業内容やOJT研修公募情報及び研修後の活躍情報を発信するとともに、マスコミを積極的に活用し県民へ広く周知する。また、アーツマネジメントに関係する団体等へ働きかけ、講座や研修について周知をはかる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
28,838	28,838	23,071	5,767	0	0	0



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は前年度企画提案方式による公募で選定され、講座、OJT研修のカリキュラム作成に関わり、全国伝統芸能のネットワーク及びノウハウを有する観点から随意契約しており、選定に当たっては妥当と考えている。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	21 沖縄・奄美連携交流促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ				
担当部課名	企画部 地域・離島課	事業実施(予定)年度	平成 28 ~ 30 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	地理・自然・歴史・文化等の背景から県域を超えて交流が行われている沖縄-奄美間において、両地域の連携・交流をさらに促進し、調和ある発展を図るため両地域間の移動コストの低減を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	-	-	-	88,837
		(b) 予算現額	-	-	-	-	74,452
		(c) 増減額 (b-a)	-	-	-	-	▲ 14,385
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		-	-	-	-	74,452
	B. 執行済額		-	-	-	-	69,011
	うち交付金充当額		-	-	-	-	55,209
	C. 次年度繰越額		-	-	-	-	0
	執行率 (%) (B/A)		-	-	-	-	92.7%
予算の状況の説明		・予算額は、沖縄-奄美間の航空路及び航路の運賃低減に係る事業者への負担金と実態調査に係る委託料を計上した。 ・執行率は92.7%であり、運賃低減の実績に応じて支出する負担金の実績確定に伴う不用額(5,209千円)が発生したこと等によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	低減化した路線における利用者数(低減した運賃の利用者数)航空路	目標	-	-	-	16,700人	
		実績	-	-	-	16,551人	
	低減化した路線における利用者数(低減した運賃の利用者数)航路	目標	-	-	-	45,700人	
実績		-	-	-	50,234人		
達成状況説明	・航空路は那覇と奄美群島を結ぶ2路線、航路においては那覇(本部)から奄美群島を結ぶ8航路で事業を実施し運賃低減を実現した。 ・低減した運賃の利用者数は、航空路について概ね達成(対目標99.1%)、航路については目標を達成(対目標109.9%)した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(30年度)
	両地域間を旅行(移動)したすべての利用者数(住民を含めた交流人口)航空路及び航路	目標	98,623人	-	-	101,800人	108,400人
		実績	-	-	-	125,684人	-
		目標					
		実績					
進捗状況説明	航空路及び航路において、両地域間を旅行(移動)したすべての利用者数は目標を達成しており、住民を含めた交流人口が増加している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・平成28年度に沖縄島北部(通称:やんばる)と奄美群島が国立公園に指定され、政府から国連教育科学文化機関(ユネスコ)に対し、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」が世界遺産候補として推薦されるなど、世界自然遺産登録に向けた取り組みが前進した。</p> <p>・平成28年度における両地域間を旅行(移動)したすべての利用者数は、平成30年度の目標としている108,400人を上回っており、住民を含めた交流人口が順調に増加している。本事業により両地域間の移動しやすい環境を確保することにより、世界自然遺産登録に向け引き続き交流の促進を図る必要がある。</p> <p>・なお、航空路については、平成30年度に徳之島-沖永良部(経由)-沖縄の新規路線開設が予定されている。</p>	<p>平成28年度は事業導入初年度ということもあり低減運賃の適用開始が年度途中の7月からとなったが、事業のさらなる周知を図ることで、低減運賃の利用促進を図り、交流人口の増加に繋げる必要がある。</p>

**今後の取り組み方針**

平成29年度は、事業のさらなる周知を図るとともに、通年での事業実施に伴う運賃低減の効果検証や、新規路線開設の動向を踏まえた低減運賃の適用について検討していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
69,011	69,011	55,209	13,802	0	0	0

沖縄県 交付対象 事業費 69,011千円	負担金 61,141千円	航空路事業者 22,875千円	1 琉球エアークommuter株式会社 22,875千円	( 航空路運賃低減に係る負担金 )
		航路事業者 38,266千円	1 マルエーフェリー株式会社 20,432千円 2 マリックスライン株式会社 17,834千円	
		委託料 7,074千円	沖縄・奄美連携交流促進事業に係る実態調査業務 ケー・シー・エス・日本能率協会総合研究所共同企業体 ( 沖縄・奄美連携交流促進事業に係る実態調査 )	
		事務費 796千円	( 旅費 )	

資金の用途の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○負担金については、事業者に対し、運賃低減に係る減収分を適正に交付した。 ○委託料については、委託事業者を公募型プロポーザル方式により業務の実施体制、実績、調査及び広報の提案等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	219 沖縄伝統空手道継承・発展事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	文化観光スポーツ部 空手振興課	事業実施 (予定)年度	平成 25 ~ 29 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	沖縄を発祥の地とする沖縄空手を保存・継承・発展させるため、セミナーの開催や空手指導者の国内外への派遣等を実施し、沖縄空手の普及・啓発並びに世界中の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・継承者の育成を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	45,861	-	61,222	-	72,147
		(b) 予算現額	45,861	-	45,207	-	61,147
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	▲ 16,015	-	▲ 11,000
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	45,861	-	45,207	-	61,147
	執行額	B. 執行済額	45,848	-	43,230	-	58,954
		うち交付金充当額	36,678	-	34,584	-	47,163
		C. 次年度繰越額	0	-	0	-	0
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	-	95.6%	-	96.4%	
予算の状況の説明	・予算額は、沖縄伝統空手道国際セミナーの開催、沖縄伝統空手道指導者派遣、周知演武会(10月25日空手の日)、沖縄伝統空手道振興調査検討事業に係る委託料、沖縄伝統空手道世界大会の開催準備のための負担金、旅費の経費を計上したところである。 ・予算残額は、委託料及び負担金の執行残によるもの。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・沖縄伝統空手道国際セミナーの開催	目標	3回	3回	3回	1回	
		実績	1回	3回	3回	1回	
	・沖縄伝統空手道指導者派遣	目標	3カ国程度	2カ国程度	2カ国程度	海外2カ国程度 国内2地域程度	
		実績	2カ国	2カ国	1カ国	海外2カ国 国内1地域	
	・周知演武会(10月25日空手の日)	目標	-	-	1回	1回	
		実績	-	-	1回	1回	
	・「沖縄伝統空手道振興調査検討事業(振興に向けた調査事業等)」	目標	-	-	-	調査実施	
		実績	-	-	-	調査実施	
・沖縄伝統空手道世界大会開催事業	目標	-	-	-	実行委員会 設置		
	実績	-	-	-	実行委員会 設置		
達成状況説明	・沖縄伝統空手道国際セミナーについて、短期セミナーを1回を開催した。 ・沖縄伝統空手道指導者派遣について、海外については、ロシア、カナダの2カ国に空手指導者計8名を派遣し、現地で沖縄空手のセミナー及び広報活動を行った。国内については、当初は東京都と富山県の2地域への派遣を予定していたが、富山県での協力団体との調整を進めていく中で、セミナーの運営方針等についての調整が整わず、派遣を断念した。 ・10月25日の空手の日を記念して、周知演武会を10月23日に那覇市国際通りで行い、空手家3973名による普及形Ⅰの一斉演武を行い、ギネス世界記録を更新した。その他関連イベントとして10月25日にウチナンチュ大会空手・古武道交流演武祭、11月15日に沖縄空手シンポジウムを開催した。 ・沖縄伝統空手道振興調査検討事業については、沖縄空手振興ビジョン(仮称)の策定に向けた基礎調査を実施した。 ・沖縄伝統空手道世界大会開催事業については、平成30年8月の大会開催に向け、平成29年1月16日に実行委員会を設置した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値 (29年度)
	・沖縄伝統空手道国際セミナー(短期)の参加者数	目標	-	120名	100名	120名	-
		実績	-	124名	111名	87名	-
	・沖縄伝統空手道指導者の育成(派遣者数)	目標	-	6名	8名	12名	-
		実績	-	8名	4名	10名	-
進捗状況説明	・沖縄伝統空手道国際セミナーについて、20の国と地域から87名(修了証贈呈者は73名)の参加を得て開催し、沖縄空手の普及を図った。 ・沖縄伝統空手道指導者をロシア、カナダの2カ国及び東京に計10名を派遣し、現地でセミナーを開催することにより次代を担う指導者・継承者の育成を図った。なお、派遣先が当初予定の2カ国・2地域から2カ国・1地域になったことから、派遣人数も目標の12名から10名に減となった。						

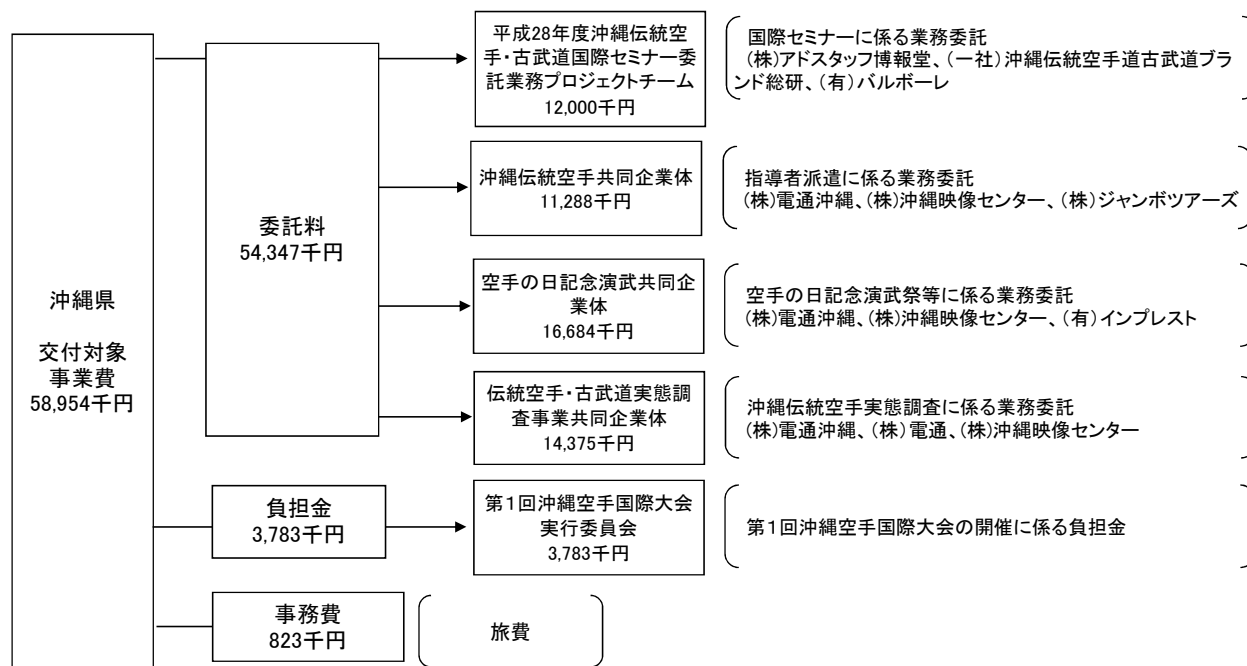
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄伝統空手道国際セミナーについて、セミナーの早期周知に努めたものの、目標としていた参加者には届かず、セミナーの実施が幅広く国内外の空手家に認知されているとはいえない。また、海外からのニーズにあうように、開催時期、期間、セミナー実施内容等を検討していく必要がある。</li> <li>・沖縄伝統空手道指導者派遣について、派遣先の協力団体の選定及び事前調整を徹底したうえで、事業実施の可能性に留意する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄伝統空手道国際セミナーについては、引き続き早期周知に努めるとともに、より広く情報発信することが求められる。広報周知の改善を図るとともに、県内空手団体との協力・連携のもと情報発信ネットワークの構築に努める。また、海外空手家が来訪しやすい時期、希望する期間、セミナーの内容等についてニーズを調査した上で、参加者の増に繋がるよう努める。</li> <li>・指導者派遣について、予定していた派遣先へ派遣ができない場合の、第2、第3の候補地の選定を検討しておく必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・実施計画について早期に決定し、十分な周知期間を取って、国際セミナーを開催する。
- ・広報周知の改善を図るとともに、県内空手団体等と協力して情報発信ネットワークの構築に努める。
- ・セミナー受講者へのアンケート調査を実施する等、海外空手家のニーズを調査し、今後のセミナーを実施する上で、企画、運営の改善を図る。
- ・指導者派遣については、沖縄伝統空手の指導者の育成、派遣先での沖縄空手の普及啓発を行う上で、効果的な国、地域に派遣できるように、複数の候補からより最適な地域及び協力団体を選定するなど、計画的に事業を推進していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
58,954	58,954	47,163	11,791	0	0	0



資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先(委託事業者)は、プロポーザル方式で業者を選定。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、これまでの本事業での実績及び他事業における実績等を参考に積算した上で公募を実施した。また、事業終了後の額の確定時において、事業目的達成の観点から真に必要な経費かどうか、証拠書類を確認した結果、適正に執行されていた。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	224	琉球王国文化遺産集積・再興事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ			
担当部課名	文化観光スポーツ部	博物館・美術館	事業実施 (予定)年度	平成 27 ~ 31 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化の発信・交流 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	戦後70年を経て、戦災により失った相伝の8分野のティーワジャ(手わざ)など王国時代の国家の威信をかけてものづくりに努めた貝摺奉行所をはじめとする精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	0	-	41,427	0	152,695
		(b) 予算現額	0	-	41,529	0	152,695
		(c) 増減額 (b-a)	0	-	102	0	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		0	-	41,529	0	152,695
	B. 執行済額		0	-	39,887	0	150,657
	うち交付金充当額		0	-	31,909	0	120,525
	C. 次年度繰越額		0	-	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		-	-	96.0%	-	98.7%
予算の状況の説明		予算額は、8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)の模造復元資料の製作にかかる委託料等の経費を計上したところであり、平成27年度に比べ111,268千円増額となった。 早割チケット等利用による旅費の経費節減により不用額2,038千円が生じているが、執行率は98.7%であり、概ね適正に予算執行できたと考えている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	①8分野の監修者会議の開催 (8分野×3回=24回)	目標	-	-	-	監修者会議 24回実施	
		実績	-	-	-	監修者会議 24回実施済	
	②模造復元資料56件(68点)の製作を開始する。	目標	-	-	-	模造復元資料 製作開始56件	
		実績	-	-	-	模造復元資料 製作開始56件済	
	③展示発信業務の会場調整(米国)	目標	-	-	-	会場調整を実施	
		実績	-	-	-	会場調整を実施済	
	【参考指標】 国内外へ流出した文化遺産の所在調査の実施	目標	-	-	所在調査2箇所		
		実績	-	-	調査2箇所実施済		
【参考指標】 8分野の監修委員会の実施及び実施設計書製作	目標	-	-	監修委員会24回 実施設計書 1件			
	実績	-	-	監修委員会24回実施済 実施設計書 1件作成			
達成状況説明	平成27年度に作成した実施設計書を元に、平成28年度から8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)合計56件の模造復元資料の製作を開始した。 また、模造復元資料の製作に必要な専門的助言を受けるため、有識者で構成された8分野の監修者会議を開催した。 併せて、海外への情報発信のための展示会会場について米国での調整を行った。						



成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	①監修者会議を8分野3回実施する。	目標	—	—	—	監修者会議 24回実施	
		実績	—	—	—	監修者会議 24回実施済	
	②模造復元資料の製作者を決め、各資料の製作工程に基づき、模造復元資料を開始する。	目標	—	—	—	模造復元資料 製作開始56件	
		実績	—	—	—	模造復元資料 製作開始56件済	
	③平成30年度県内4ヶ所、国内3ヶ所及び平成31年度の国外3ヶ所の展示発信業務の会場調整を行う。	目標	—	—	—	会場調整を実施	
		実績	—	—	—	会場調整を実施 済	
	【参考指標】 成果報告書の作成	目標	—	—	報告書8件作成		
		実績	—	—	報告書8件作成		
	【参考指標】 琉球王国文化ブランディング代表の選定	目標	—	—	模造復元品の選定 約50点		
実績		—	—	模造復元品の選定 76点			
進捗状況説明	平成27年度に作成した実施設計書を元に、平成28年度から8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)合計56件の模造復元資料の製作を開始した。そのうち平成28年度は染織4件、金工3件の計7件が完成した。また、模造復元資料の製作に必要な専門的な助言を受けるため、有識者で構成された8分野の監修者会議を開催した。併せて、海外への情報発信のための展示会会場について米国での調整を行った。						

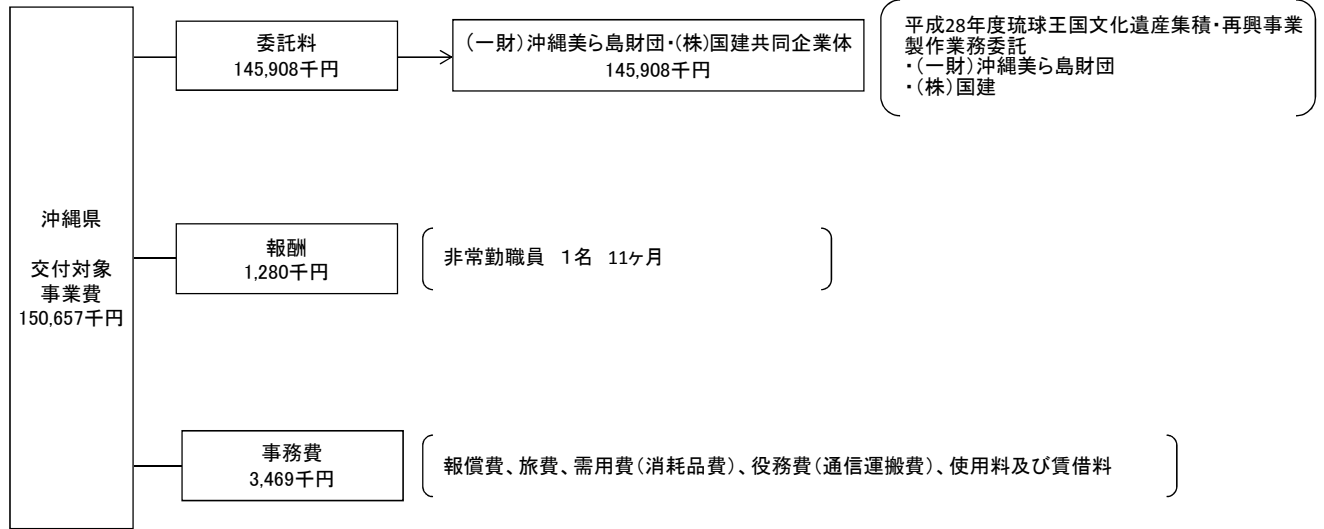
H28-No.224

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の製作過程で新たな知見を得ることがあるため、工程管理に注意しながら製作を進める必要がある。それら各分野の模造復元に係る基本情報と製作工程を記録保存し、後世のための基礎資料とする必要がある。</li> <li>・残存する資料をX線等で調べたところ、現代では調達困難な原材料や道具が使用されていることがわかった。</li> <li>・米国での展示会場の調整を行ったところ、開催年の約2年前には展示会開催を確約しなければならない等の諸条件があり、単年度予算措置では実施が困難と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作品が8分野にわたりかつ専門性が求められるため、引き続き監修者と製作者の情報共有等の連携を強化する等、管理体制に万全を期す必要がある。</li> <li>・監修者からの助言を踏まえ、実物に限りなく近い原材料等(代替品)を選定し、模造復元資料を製作する。</li> <li>・海外への情報発信として、展示会開催以外の手法も新たに検討する必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作工程において必要な専門的助言を監修者から受けながら、引き続き模造復元資料の製作を行っていく。また、製作工程や新たな知見については論文等で発表する。</li> <li>・県内での展示発信について、開催施設(予定)との検討調整を行い報告書を作成する。また、海外への情報発信については新たな手法も含め再検討する。</li> </ul>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
150,657	150,657	120,525	30,132	0	0	0



資金の 用途の流れ、 点検評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は競争入札によって選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	263	みんなの文化財図鑑刊行事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-エ		
担当部課名	教育庁 文化財課	事業実施 (予定)年度	平成 26 ~ 30 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	文化の発信・交流		
事業内容	<p>・沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財、県指定文化財、市町村指定文化財を紹介する書籍、6冊を刊行する。刊行後は、県内の学校及び公立図書館を中心に配布するとともに、ハンドブック版については、観光客へのサービスとして世界遺産などの文化財と関連する施設に配布し、目に触れるようにする。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,126	—	14,803	0	12,640
		(b) 予算現額	3,126	—	14,803	0	12,640
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		3,126	—	14,803	0	12,640
	B. 執行済額		3,022	—	8,517	0	9,468
	うち交付金充当額		2,417	—	6,813	0	7,574
	C. 次年度繰越額		0	—	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		96.7%	—	57.5%	—	74.9%
予算の状況の説明		執行率は74.9%であり、委託業務における入札残が発生したことが主な要因である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	写真撮影	目標			写真撮影	写真撮影	
		実績			写真撮影	写真撮影	
	原稿執筆	目標			原稿執筆	原稿執筆	
		実績			原稿執筆	原稿執筆	
達成状況説明	<p>・国・県指定文化財423件について、写真は平成27～28に撮影予定の有形文化財、史跡名勝、埋蔵文化財、平成27～29に撮影予定の天然記念物、無形・民俗文化財のうち平成28年度撮影予定件数を目標として設定。          ・原稿は、平成27～28に執筆予定の有形文化財、史跡名勝、埋蔵文化財、平成28～29に執筆予定の天然記念物、無形・民俗文化財、ハンドブック版のうち平成27年度執筆予定件数を目標として設定。</p>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	26年度	27年度	28年度	目標値
	指定文化財221件の写真撮影	目標	—	—	180	221	
		実績	—	—	223	243	
	指定文化財221件の原稿執筆	目標	—	—	130	221	
		実績	—	—	130	221	
	進捗状況説明	<p>・平成28年度は26年、27年度に収集した、指定文化財の情報と、策定した編集・刊行計画に基づいて写真撮影を行う。平成28年度は指定文化財の総数と事業年度の年数より、撮影する文化財の目標値を221件と設定した。事業を実施計画にもとづき効率的にすすめたため、実績値は243件となり、目標値をこえることが出来た。          ・平成28年度は27年度に引き続き、編集会議を各週で行い、各分野の進捗状況等を確認した。</p>					

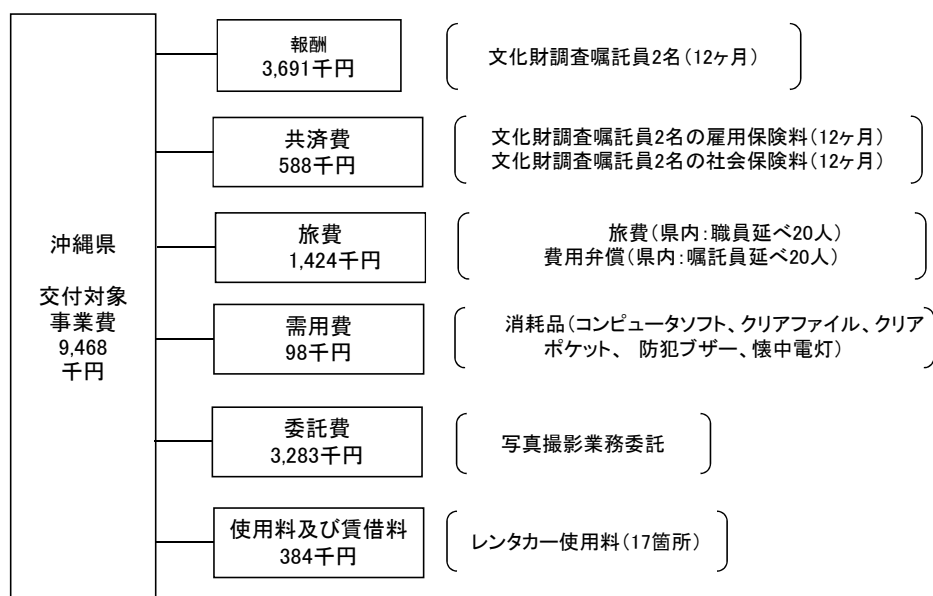
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①普及書の編集や写真撮影は課内の職員に分担して行うため、業務の進捗状況については、課内で共有する必要がある。 ②史跡、名勝、天然記念物は天候に左右されるため、写真撮影は行えたが、図鑑に掲載するのは少し、難しい写真がある。	①日誌を回覧するなど、業務の進捗状況や、課題について共有できるようにした。 ②天候に十分配慮して日程設定を行い、写真撮影を行っているが、スケジュールの関係で対応できない場合がある。そのため、スケジュールの立て方を改善する必要がある。 どうしても写真撮影が出来ない場合は、撮影された写真を収集するようにする。

**今後の取り組み方針**

・義務教育が終了する中学生3年生をメインターゲットとし、基礎的な学力でも内容を理解できるようにする。このことによって、文化財普及書の分かりづらさを改善し、読者層を広げるとともに、学校教材としての活用も視野に入れる。また、知識のある読者でも楽しめるよう複数の内容から構成する。内容は、中学生が楽しめる基本解説をメインに、より専門性の高い専門コラムの2重構成とする。  
 ・環境の変化やスケジュールの都合でどうしても写真撮影できない文化財があるため、過去にされた写真を収集する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
9,468	9,468	7,574	1,894	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○適切な手続により予算執行を行った。 ○嘱託職員は、ハローワークをとおして募集した。 ○今年度は、とくに受益者が負担するような事業を行っていない。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	